

新聞コーパスにおける二字漢語動名詞の 動詞的・名詞的ふるまいについて

田 辺 和 子
中 條 清 美
船 戸 はるな

キーワード：新聞コーパス・動名詞・コロケーション・コンコーダンス・相互情報量

はじめに

本論文は、平成21年より始めた日本女子大学留学生科目における語彙指導のための基礎研究の報告である¹⁾。本研究では、新聞コーパスを対象として英語教育（日本大学・中條担当）との共同研究という形式²⁾で二字漢語から成る動名詞のコロケーション（連語）を中心に教材化を進めてきた。本論文では、教材化を行う上での基礎研究として、新聞コーパスから考察できる二字漢語の日本語における使用の特徴について検証を試みた。

1. 研究課題

本研究では、報道文における動名詞が、「二字漢語+する」という用法が辞書では認められていても、それぞれの語によって動詞的にふるまうことが多いものと、名詞的にふるまうことが殆どである語と、使用傾向が明確にあるのではないかという仮説に基づき、新聞コーパスにおける「二字漢語」動名詞の用法を分析した。

2. 使用したコーパス

対象とした二字漢語は、中條・木下・田辺・内山・西垣（2010）で選定された「日本語新聞キーワード」664語に含まれる二字漢語263語である。検索のソースとなる「新聞コーパス」には、日英新聞記事対応付けデータ（内山・井佐原, 2003）の日本語部分を用いた。この新聞コーパスは、1989年9月から2001年12月までの読売新聞と*The Daily Yomiuri*の記事を自動的に対応付けて作成されたものである（延べ語数 4,041,024語、異なり語数 52,282語）。新聞記事データの特徴は、同一の分野とスタイルの言語材料からデータを大規模に得られる点にある。また、引用資料が明確なのでデータの信頼性が高く、新聞の言語使用において正確な特徴を掴むことができる。なお、検索ツールとしてParaConc（Barlow, 2004）及びCollocate（Barlow, 2005）を用いた。

3. 「日本語新聞キーワード」の選定

前述の「新聞キーワード」の抽出については、「新聞コーパス」における各単語の出現頻度を「散文コーパス」³⁾での出現頻度と比較した指標値を求め、指標値の高い順に特徴語リストを作成した。そして、対数尤度比 (Dunning, 1993) を使用して1,000語の新聞特徴語を抽出した。対数尤度比の算出にはフリーウェアのAntConc (Anthony, 2006) のKeyword List機能を用いた。さらに、この1,000語から「名詞 (固有名詞・数等)」を抜いた664語を「日本語新聞キーワード」とした。本研究では、この664語のうち、本コーパス上でサ変動詞として使われていない語を除いた263語 (以後「二字漢語動名詞」) をさらに選び出して分析の対象とした。

4. コロケーションとは何か

Teubert (2004) は、コーパス言語学が近年盛んになったことにより、辞書学 (Lexicology) における意味研究が、コロケーションを対象に行われるようになったことを大きな特徴として述べている。

一般にコロケーションというのは「二つ以上の単語の慣用的なつながり」(デジタル大辞泉) と定義されているが、本論文では、例えば、「調査」の名詞としての役割においては、「行う」という動詞との組み合わせが高い頻度で使われること、動詞としての役割においては、「調査した結果」というような使われ方をコロケーションとして取り扱う。このようにして、漢語動名詞の使用の実態をコロケーション (連語) の中で、どのような語と高い頻度で結びついて動詞として (あるいは名詞として) 使われているのか、また、全体のどのくらいの比率で動詞として (あるいは名詞として) 使われているのかという視点で分析した。

4.1 「二字漢語動名詞」用法の分類

前述した漢語動名詞上位100位の動詞について、ParaConcのAdvanced Collocation (Search term, 1 R, 2 R) で高頻度上位20位のCollocationを抽出し (表2参照)、その使われ方から、動詞群を下記のように五つに分類した。

1) 名詞用法中心型: 「改革」「選挙」タイプ

このグループは、上位20位までの使用内訳のほとんどが名詞としての用法である動詞群である。

2) 動詞用法中心型: 「実施」「強調」タイプ

このグループは使用内訳の上位20位までが主に動詞としての用法である。

3) 「する」中心型: 「支援」「強化」タイプ

このグループは、「する」の用法が他のサ変の活用形より高い頻度で用いられる。

4) 「した」首位型：「安定」「合意」タイプ

このグループは、「した」用法がほぼ首位に位置している。

5) 「され」中心型：「指摘」「報告」タイプ

このグループは、「され」の用法がほぼ首位に位置している。

参考：出現頻度は低いですが、「させ」の用法を20位内に含む漢語として「安定」「拡大」「参加」「回復」「提出」「感染」「加盟」「促進」「実現」「悪化」「担当」の11語があった。

4.2 分析の手順

4.2.1 ～「改革」の場合～

表1で「改革」のコンコーダンスラインのモデルの一部を掲載した（総用例数：4,829）。これによると改革は名詞用法が多いことがわかる。ほとんどが名詞と結びついて名詞合成語句を形成している。さらに、名詞的用法の内容を分析するために、まず、Advanced Collocation (Search term, 1 R, 2 R) (表2) およびCollocate (Span3) のCount (使用頻度) 順および、Mutual Information (相互情報量) 順の表を作成した(表3)。Advanced Collocationは、キーワード「改革」の右1語と右2語までの出現語彙を頻度順に整理したものである。Collocate (Span3) は、「改革」を含む連続した三語からなるCollocationを頻度順、及び、相互情報量の指標値の高い順(頻度数5以上のものを抽出)に並べたものである。表4では、表2とは対照的に、キーワード「改革」の左側1語と2語目までを揃えたコロケーションの例を頻度順の高いものから並べた。

【表1】 キーワード「改革」コンコーダンス5例

<p>目標の一つとして取り上げられよう。彼らの改革が成功し彼らが世界経済に完全に組み 持する。これらのグループの課題は、構造改革を奨励し、技術的支援を調整すること ロシア製品のアクセス改善は、ロシアの構造改革を大いに強化する。2 日本国政府及 頼の指導の下で、ロシア政府は、困難な改革過程に乗り出した。中国は現在、経済 頼を置く。模範例としての価値、あるいは改革過程にとっての戦略的重要性の観点か</p>
--

【表2】「改革」のコロケーション右側

Advanced Collocation (Search term, 1R, 2R)		
Count	Pct	Collocation
106	2.20%	改革 は、
65	1.35%	改革 関連 法案
60	1.24%	改革 ・ 開放
60	1.24%	改革 への
59	1.22%	改革 推進 本部
53	1.10%	改革 を 進める
46	0.95%	改革 案 を
41	0.85%	改革 では
41	0.85%	改革 には
40	0.83%	改革 の 推進
39	0.81%	改革 が 必要
37	0.77%	改革 案 は
35	0.72%	改革 を 進め
32	0.66%	改革 の 一環
30	0.62%	改革 に 取り組む
30	0.62%	改革 委員会
28	0.58%	改革 」の
28	0.58%	改革 」を
28	0.58%	改革 の 必要
25	0.52%	改革 国民 会議

【表3】Collocateによる「改革」のコロケーション

Collocate (span3)			
Count	Collocation	Mutual Inf.	Collocation
130	、政治 改革	21.20130	改革 工程 表
124	構造 改革 の	19.88077	改革 先行 プログラム
114	構造 改革 を	18.79237	改革 プロジェクト チーム
107	財政 構造 改革	18.17969	機構 改革 大綱
106	改革 は、	18.05932	特殊 法人 改革
103	の 抜本 改革	17.98833	改革 推進 本部
98	。 政治 改革	17.75943	中央 省庁 改革
94	、構造 改革	17.71926	なき 構造 改革
86	政治 改革 の	17.30714	財政 構造 改革
77	の 構造 改革	17.27050	掲げる 構造 改革
76	、行政 改革	17.23095	行政 改革 推進
75	の 改革 を	17.05441	石原 行政 改革
73	経済 構造 改革	17.02906	改革 担当 相
72	選挙 制度 改革	16.96245	改革 関連 法案
70	、改革 の	16.62233	構造 改革 路線
67	の 行政 改革	16.59853	行政 改革 大綱
65	改革 関連 法案	16.22260	臨時 行政 改革
65	行政 改革 推進	15.91853	省庁 改革 関連
60	改革 ・ 開放	15.86281	改革 推進 事務
60	改革 への	15.80034	行政 改革 プロジェクト

【表4】「改革」のコロケーション左側

Advanced Collocation (2L, 1L, Search term)		
Count	Pct	Word
130	2.69%	、政治 改革
107	2.22%	財政 構造 改革
103	2.13%	の 抜本 改革
98	2.03%	。 政治 改革
94	1.95%	、構造 改革
77	1.59%	の 構造 改革
76	1.57%	、行政 改革
73	1.51%	経済 構造 改革
72	1.49%	選挙 制度 改革
67	1.39%	の 行政 改革
56	1.16%	的 な 改革
55	1.14%	制度 の 改革
46	0.95%	。 行政 改革
46	0.95%	「 政治 改革
46	0.95%	の 政治 改革
45	0.93%	は、改革
41	0.85%	、経済 改革
40	0.83%	、税制 改革
40	0.83%	た。改革
39	0.81%	。 構造 改革

表2～4を考察すると、文中における「改革」の二字漢語動名詞の使われ方が、明確に把握できる。特に複合名詞として他にどんな語と組しやすいのかという課題に対しては、頻度も含めてその使用のされ方が正確なデータとして得られる。「改革」は、語の前に「政治」「構造」「行政」「制度」などの言葉をおいて、「——改革」という複合名詞を形成し、文中では、題目語「——改革は」と使用される傾向が強いことが認められる。また、「改革を」と目的語となる場合には、伴う動詞は「進める」が多いこと、「改革に取り組む」という表現が固定化していること、「必要」「推進」という語との共起性が高いことも明らかになった。

4.2.2 ～「実施」の場合～

「改革」と同様に「実施」のコンコーダンスラインの一部をモデルとして掲載した(表5)(総用例数:2,151)。「実施」は、動詞「促進する」の目的語となること、また「実施する」とサ変動詞としても使用されることが考察できる。

【表5】キーワード「実施」コンコーダンス5例

どのように調和させるか。CFE条約の完全な 実施 は、欧州における新たな協力的安 ったのである。我々は、我々のロシア支援の 実施 を促進するため支援 実施 グループ 、我々のロシア支援の 実施 を促進するため支援 実施 グループをモスクワに設立すること ために合意された、この世界的な成長戦略を 実施 すべく適切な措置をとりつつあり した。彼らは、ロシアが包括的な経済改革を 実施 するための努力を強化することを

表6は、「実施」とそれに続く二語でつくられるCollocationの使用頻度順に並べられている。これに抛り、サ変活用の種類と使用頻度が把握できる。サ変活用の種類としては、「一され」「一した」「一して」「一する」のいずれの形にもなり、「一した」「一して」「一され」においては上位3位を占めている。「一する+名詞」と連体修飾にも使われ「実施する方針」「実施する予定」という例が使用頻度上位20位に入っている。また、助動詞としては「一すべき」の使用が認められ、全体的にサ変動詞として使われる傾向が強いことが「改革」との比較においても確かめられる。

【表6】「実施」のコロケーション右側

Advanced Collocation (Search term, 1R, 2R)		
Count	Pct	Collocation
225	10.46%	実施した
172	8.00%	実施して
152	7.07%	実施され
90	4.18%	実施される
72	3.35%	実施し、
70	3.25%	実施する。
61	2.84%	実施すること
43	2.00%	実施する方針
23	1.07%	実施すると
21	0.98%	実施すべき
20	0.93%	実施するため
15	0.70%	実施しない
15	0.70%	実施に移さ
14	0.65%	実施するよう
14	0.65%	実施状況を
13	0.60%	実施する予定
12	0.56%	実施されれ
12	0.56%	実施のため
11	0.51%	実施したい
11	0.51%	実施は、

【表7】Collocateによる「実施」のコロケーション

Collocate (span3)			
Count	Collocation	Mutual Inf.	Collocation
225	実施した	14.81261	実施すべき
215	を実施し	14.79329	さかのぼって実施
172	を実施する	14.61941	実施されれ
172	実施して	14.20115	着実な実施
152	実施され	14.15690	平和実施軍
121	に実施し	14.02205	速やかな実施
90	実施される	13.91496	実施に移さ
75	の実施を	13.60416	実施しよう
75	が実施さ	13.41626	来年度から実施
72	実施し、	13.23386	円滑な実施
70	実施する。	12.96533	総理府が実施
61	実施すること	12.79471	実施すれば
59	に実施する	12.27158	四月から実施
53	対象に実施	12.19059	実施される
49	調査を実施	12.16743	実施時期など
48	に実施さ	12.11763	一月から実施
45	から実施する	12.08284	実施に移す
43	実施する方針	12.07061	両日に実施
39	を実施。	12.04080	実施する方針
33	の実施に	11.81554	年度から実施

【表8】「実施」のコロケーション左側

Advanced Collocation (2L, 1L, Search term)		
Count	Pct	Collocation
53	2.46%	対象に実施
49	2.28%	調査を実施
20	0.93%	対策の実施
20	0.93%	的に実施
19	0.88%	」を実施
16	0.74%	などを実施
16	0.74%	にも実施
16	0.74%	実験を実施
15	0.70%	して実施
14	0.65%	からの実施
14	0.65%	減税を実施
14	0.65%	四月から実施
14	0.65%	事業の実施
13	0.60%	減税の実施
13	0.60%	選挙を実施
13	0.60%	対策を実施
12	0.56%	策の実施
12	0.56%	的な実施
12	0.56%	年度から実施
11	0.51%	検査を実施

これらの考察から、二つの課題が提起される。まず第一は、名詞として使用されているのか、サ変動詞として使用されているのか、その比率の比較、第二には、サ変動詞として使用されているのなら、どの活用形が多いのかという課題である。これに対しての答えを得ようとするには、表2～4だけでは、データとして不十分である。そこで新たな資料作成に取り組んだ。

5. 二字漢語動名詞のグループ別特徴の考察

本項では、より厳密に名詞的用法と動詞的用法、また動詞的用法の中でサ変活用のどの活用形を多く取っているかを調べる目的で、Advanced Collocation 1Rのみのリストを、1R・2Rのリストに加えて作成した。これら2種類の表を組み合わせるとまず1Rの表で、名詞的用法の視点からは、共起する名詞語句が拾える。また、動詞的用法では「さ」「し」「する」「せ」別にその使用数がわかる。さらに1R・2Rでは、サ変活用のどの活用形が多用されているか明確に把握できる。

5.1 名詞的用法中心型：「改革」「選挙」タイプ

このグループは、前述したとおり名詞的用法が動詞的用法に比べて圧倒的に多い二字漢語である。

表9「改革」については、前項ですでに分析したが、表10「選挙」においてもサ変活用形は頻度別上位20位のなかには見られない。

【表9】改革（用例数：4,829）

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
775	16.05%	の	106	2.20%	は、
644	13.34%	を	65	1.35%	関連 法案
374	7.74%	に	60	1.24%	・ 開放
268	5.55%	は	60	1.24%	への
259	5.36%	が	59	1.22%	推進 本部
156	3.23%	案	53	1.10%	を進める
140	2.90%	」	46	0.95%	案を
133	2.75%	、	41	0.85%	では
118	2.44%	推進	41	0.85%	には
107	2.22%	で	40	0.83%	の 推進
91	1.88%	関連	39	0.81%	が必要
84	1.74%	など	37	0.77%	案は
84	1.74%	も	35	0.72%	を進め
82	1.70%	と	32	0.66%	の一環
77	1.59%	・	30	0.62%	に取り組む
69	1.43%	について	30	0.62%	委員会
66	1.37%	へ	28	0.58%	」の
65	1.35%	や	28	0.58%	」を
61	1.26%	会議	28	0.58%	の 必要
53	1.10%	路線	25	0.52%	国民 会議

【表10】選挙（用例数：2,756）

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
498	18.07%	区	97	3.52%	区 制
300	10.89%	で	86	3.12%	区 比例
215	7.80%	の	72	2.61%	区 で
213	7.73%	制度	72	2.61%	制度 改革
158	5.73%	を	50	1.81%	では
126	4.57%	に	42	1.52%	区 の
98	3.56%	戦	39	1.42%	制度 の
94	3.41%	が	37	1.34%	での
80	2.90%	は	34	1.23%	は、
74	2.69%	法	33	1.20%	で、
58	2.10%	運動	28	1.02%	区 選
55	2.00%	権	27	0.98%	法 改正
55	2.00%	後	25	0.91%	制度 を
47	1.71%	結果	23	0.83%	への
42	1.52%	協力	23	0.83%	権 を
37	1.34%	監視	23	0.83%	戦 で
34	1.23%	管理	21	0.76%	に向け
28	1.02%	と	21	0.76%	後の
27	0.98%	へ	20	0.73%	を 控え
26	0.94%	公約	20	0.73%	管理 委員

5.2 動詞的用法中心型：「実施」「強調」タイプ

このグループは、5.1のグループとは対照的に、「実施」「強調」ともにサ変活用形が20位のうちの多くの項目を占めている。特に1R、2Rの表において両者とも上位3位までサ変活用形であり頻度も高いことが考察できる。実施は、1R下位において名詞合成語句として「実施計画」「実施時期」「実施状況」などの組み合わせの可能性も窺わせるが、「強調」においては、名詞合成語句の例は表12からは把握できない。

【表11】 実施（用例数：2,151）

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
503	23.38%	し	225	10.46%	した
399	18.55%	する	172	8.00%	して
256	11.90%	さ	152	7.07%	され
153	7.11%	を	90	4.18%	される
104	4.84%	に	72	3.35%	し、
79	3.67%	。	70	3.25%	する。
66	3.07%	の	61	2.84%	すること
49	2.28%	、	43	2.00%	する方針
36	1.67%	は	23	1.07%	すると
30	1.39%	が	21	0.98%	すべき
29	1.35%	計画	20	0.93%	するため
27	1.26%	時期	15	0.70%	しない
25	1.16%	状況	15	0.70%	に移さ
22	1.02%	す	14	0.65%	するよう
20	0.93%	できる	14	0.65%	状況を
20	0.93%	など	13	0.60%	する予定
18	0.84%	と	12	0.56%	されれ
15	0.70%	で	12	0.56%	のため
13	0.60%	や	11	0.51%	したい
13	0.60%	機関	11	0.51%	は、

【表12】 強調（用例数：948）

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
604	63.71%	し	334	35.23%	した
154	16.24%	する	184	19.41%	して
125	13.19%	。	69	7.28%	する。
31	3.27%	さ	44	4.64%	し、
25	2.64%	、	22	2.32%	したい
2	0.21%	は	21	2.22%	され
1	0.11%	・	10	1.05%	される
1	0.11%	しよ	9	0.95%	するの
1	0.11%	す	7	0.74%	しながら
1	0.11%	すれ	6	0.63%	するが
1	0.11%	せ	6	0.63%	するとともに
1	0.11%	という	5	0.53%	すること
1	0.11%	に	5	0.53%	すると
			4	0.42%	。また
			4	0.42%	するよう
			3	0.32%	、「
			3	0.32%	、日本
			3	0.32%	。しかし
			3	0.32%	。その
			3	0.32%	しなけれ

5.3 「する」中心型：「支援」「強化」タイプ

【表13】 支援（用例数：2,501）

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
435	17.39%	を	60	2.40%	する ため
271	10.84%	する	59	2.36%	策 を
241	9.64%	の	54	2.16%	して
156	6.24%	策	42	1.68%	する こと
128	5.12%	に	41	1.64%	を 行う
100	4.00%	が	39	1.56%	の ため
95	3.80%	し	30	1.20%	は、
70	2.80%	は	25	1.00%	では
65	2.60%	で	24	0.96%	し、
52	2.08%	、	24	0.96%	策 の
45	1.80%	など	22	0.88%	する。
42	1.68%	体制	21	0.84%	を 受け
40	1.60%	活動	18	0.72%	を 求め
38	1.52%	も	18	0.72%	活動 を
38	1.52%	国	17	0.68%	体制 を
37	1.48%	や	16	0.64%	国 会合
28	1.12%	」	16	0.64%	策 として
26	1.04%	と	13	0.52%	を 表明
25	1.00%	について	13	0.52%	を 約束
24	0.96%	者	13	0.52%	を 要請

【表14】 強化（用例数：1,562）

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
298	19.08%	する	66	4.23%	し、
205	13.12%	を	63	4.03%	して
186	11.91%	し	63	4.03%	する ため
115	7.36%	に	58	3.71%	する こと
112	7.17%	の	41	2.62%	され
86	5.51%	など	36	2.30%	を 図る
65	4.16%	さ	31	1.98%	する。
64	4.10%	、	30	1.92%	の ため
63	4.03%	が	29	1.86%	した
40	2.56%	や	21	1.34%	される
36	2.30%	は	19	1.22%	などを
35	2.24%	と	18	1.15%	する 必要
30	1.92%	も	18	1.15%	に 向け
28	1.79%	策	15	0.96%	する の
23	1.47%	」	15	0.96%	など、
22	1.41%	で	15	0.96%	や、
11	0.70%	く	14	0.90%	する 方針
9	0.58%	しよ	13	0.83%	しなけれ
9	0.58%	だ	13	0.83%	する よう
9	0.58%	へ	12	0.77%	などの

このグループは、サ変活用形のうち特に「する」形の使用が多くみられる。「一するため」、「一すること」といった句表現で使われることが多いことが両者の共通した特徴である。「支援」においては格助詞「を」を伴って「行う」「受ける」「求める」「表明（する）」「約束（する）」「要請（する）」などの動詞とのコロケーションが数多くみられるが、「強化」においては「図る」との共起のみ把握できた。「強化」においては、サ変動詞活用が「する」のほかにも多くみられ、今後この分類を活用するためには前項に挙げた「強調」との厳密な分類基準の設定をする必要がある。

新聞コーパスにおいては、「～する」+名詞 の連体修飾形が多くみられる。以下に上位20位のリストからその例を挙げてみた。

新聞で多く使われる形式名詞「こと」及び「格関係をとみなわない」連体修飾「する」の例
 （右側の動詞が、「～する」の～の部分にあてはまる。）

- 「～すること」協力 支援 協議 開発 合意 拡大 対応 緩和 建設 推進
- 「～する方針」改正 実施 検討 拡大 強化 設置 削減 導入 提出
- 「～する予定」実施
- 「～する必要」強化
- 「～する計画」建設
- 「～する声」指摘

5.4 「した」首位型：「安定」「合意」タイプ

このグループの動詞は、「安定した」「合意した」という形での使用頻度が非常に高いものである。他のサ変動詞の使用については、「安定」においては「安定して」「安定させる」が、「合意」においては「合意して」「合意され」「合意し、」が多いことが考察できる。

【表15】安定（用例数：1,839）

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
269	14.63%	し	201	10.93%	した
201	10.93%	に	83	4.51%	のため
193	10.49%	を	47	2.56%	的な
185	10.06%	化	44	2.39%	して
144	7.83%	の	31	1.69%	させる
87	4.73%	的	30	1.63%	にも
82	4.46%	と	26	1.41%	と発展
57	3.10%	成長	26	1.41%	化に
46	2.50%	さ	25	1.36%	化の
41	2.23%	が	25	1.36%	的に
40	2.18%	供給	22	1.20%	に寄与
38	2.07%	、	22	1.20%	化を
35	1.90%	は	21	1.14%	につながる
32	1.74%	へ	21	1.14%	への
26	1.41%	性	20	1.09%	化策
23	1.25%	にとって	18	0.98%	と繁栄
22	1.20%	」	17	0.92%	を確保
19	1.03%	装置	16	0.87%	を図る
18	0.98%	感	16	0.87%	成長の
15	0.82%	確保	14	0.76%	は、

【表16】合意（用例数：1,959）

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
552	28.18%	し	424	21.64%	した
212	10.82%	に	75	3.83%	して
192	9.80%	を	65	3.32%	され
141	7.20%	が	45	2.30%	し、
114	5.82%	の	42	2.14%	に達し
78	3.98%	は	42	2.14%	は、
71	3.62%	さ	22	1.12%	を受け
68	3.47%	で	19	0.97%	では
64	3.27%	する	17	0.87%	する見通し
36	1.84%	内容	15	0.77%	が成立
33	1.68%	事項	15	0.77%	する。
32	1.63%	案	15	0.77%	すること
28	1.43%	形成	14	0.71%	が得
27	1.38%	」	14	0.71%	による
24	1.23%	。	14	0.71%	に向け
21	1.07%	文書	13	0.66%	には
15	0.77%	、	13	0.66%	に基づき
15	0.77%	後	12	0.61%	で、
14	0.71%	書	12	0.61%	に基づく
13	0.66%	も	11	0.56%	ができ

5.5 「され」中心型：「指摘」「報告」タイプ

このグループは、受け身形「され」で使用される頻度が他の活用形に比べて非常に高いグループである。上位20位の順位からいうと「指摘」の場合は、他の活用形「した」「して」「する。」が受け身形の後に続くが、「報告」では、「した」「して」「する。」は、間をあけて下位に位置する。

【表17】 指摘 (用例数: 1,697)

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
527	31.05%	し	349	20.57%	され
418	24.63%	さ	213	12.55%	した
216	12.73%	する	211	12.43%	して
207	12.20%	。	99	5.83%	する。
109	6.42%	も	73	4.30%	し、
65	3.83%	が	73	4.30%	もある
49	2.89%	、	68	4.01%	される
22	1.30%	を	37	2.18%	する声
17	1.00%	に	28	1.65%	がある
16	0.94%	は	19	1.12%	するよう
11	0.65%	できる	15	0.88%	したい
10	0.59%	だ	11	0.65%	できる。
10	0.59%	で	10	0.59%	が出
6	0.35%	の	10	0.59%	だ。
4	0.24%	せ	10	0.59%	を受け
1	0.06%	さえ	9	0.53%	。この
1	0.06%	す	8	0.47%	、「
1	0.06%	でき	7	0.41%	も出
1	0.06%	なし	6	0.35%	。その
1	0.06%	について	6	0.35%	。また

【表18】 報告 (用例数: 2,066)

1 R			1 R, 2 R		
頻度	%	語	頻度	%	語
563	27.25%	書	136	6.58%	書は
310	15.00%	を	134	6.49%	書を
166	8.03%	は	99	4.79%	され
135	6.53%	し	92	4.45%	は、
130	6.29%	さ	71	3.44%	書に
118	5.71%	で	66	3.19%	した
92	4.45%	する	57	2.76%	を受け
90	4.36%	に	55	2.66%	書で
72	3.49%	が	49	2.37%	書の
72	3.49%	の	45	2.18%	では
49	2.37%	」	37	1.79%	して
24	1.16%	。	34	1.65%	をまとめ
22	1.06%	、	33	1.60%	で、
21	1.02%	案	33	1.60%	書が
19	0.92%	も	30	1.45%	する。
15	0.73%	と	24	1.16%	をまとめる
11	0.53%	まで	23	1.11%	される
11	0.53%	義務	21	1.02%	し、
10	0.48%	など	16	0.77%	による
10	0.48%	や	15	0.73%	をし

6. 動詞的および名詞的使用の比率一覧表による分析

本項では、3. で述べた二字漢語動名詞263語それぞれにおいて、サ変活用の「され」「させられ」「させ」「した」「して」「する」それぞれの使用数全体における使用率と、それを100%から引いた差を名詞的使用率として表を作成した(表19・20ここでは書面の都合上「改革」から「融資」までの30語のみを掲載する)。

この表から読み取れることは、二字漢語動名詞のサ変動詞としての使用率と名詞としての使用率は、動詞それぞれにおいて特徴があり、名詞的用法が90%以上のもの(改革・貿易・調査・関係・投資・選挙・規制・保障・措置・消費・交渉・計画)から、動詞的用法の比率が50%に近いもの(実施・検討・設置)、30%に近いもの(合意・拡大・対応・強化)まで、分散していることである。これは、二字漢語動名詞の意味を使い手がどのように認識し、日本語の体系の中に組み込んだかという結果として解釈できる。

一方、中国語話者によると、それぞれの二字漢語の動詞的ふるまい・名詞的ふるまいは、中国語においても日本語の使用と大きな差がなく、非常に類似性が高いようである。これは、日本語が中国語と言語接触をしたゆえに、元の言語における特徴を日本語においても引き継いだのか、または、動名詞における意義素レマ‘lemma’に対する人間の認知の普遍性があるから他言語においても同様な文法的ふるまいをすると考えるのか、言語学の大きな論点となる。

【表19】 新聞キーワードにおける動名詞の動詞的ふるまい・名詞的ふるまい分析（実数編）

	二字漢語	され*	させられ*	させ*	した	して、	する	サ変総数	名詞総数	総数
1	改革	5	0	0	2	2	66	76	4753	4829
2	協力	0	0	1	17	38	466	523	2834	3357
3	貿易	0	0	0	0	0	1	1	2021	2022
4	調査	3	0	1	79	3	115	200	3376	3576
5	関係	0	0	0	9	0	75	84	5045	5129
6	投資	3	0	0	8	1	38	50	2068	2118
7	選挙	8	0	0	0	0	2	10	2746	2756
8	改正	44	0	0	15	9	163	233	1716	1949
9	支援	5	0	0	10	1	371	387	2114	2501
10	協議	16	0	0	43	6	242	307	1664	1971
11	実施	254	0	2	227	7	705	1199	952	2151
12	規制	27	0	0	3	2	119	151	1716	1867
13	報告	122	0	8	67	2	163	364	1702	2066
14	検討	149	0	3	45	1	1047	1248	999	2247
15	開発	53	0	1	139	3	133	329	2481	2810
16	安定	0	0	46	201	0	81	330	1509	1839
17	合意	70	0	1	428	0	196	695	1264	1959
18	保障	43	0	0	21	0	68	132	1413	1545
19	拡大	18	0	40	88	6	467	619	1180	1799
20	措置	0	0	0	0	0	4	4	1498	1502
21	消費	6	0	0	4	0	11	21	1804	1825
22	対応	1	0	2	79	28	521	634	1499	2133
23	交渉	2	0	0	4	0	36	42	1682	1724
24	強化	62	0	3	30	3	471	569	993	1562
25	計画	41	0	0	21	0	117	179	2479	2658
26	緩和	39	0	4	9	2	119	173	971	1144
27	会談	0	0	0	48	1	121	170	1178	1348
28	輸入	34	0	1	29	1	93	158	1273	1431
29	設置	165	0	0	92	10	345	612	518	1130
30	融資	4	0	2	26	1	88	121	1001	1122

【表20】 新聞キーワードにおける動名詞の動詞的ふるまい・名詞的ふるまい分析（比率編）

	二字漢語	され*	させられ*	させ*	した	して、	する	サ変総数	(二字漢語+サ変) ／総数	二字漢語(名詞) ／総数
1	改革	7%	0%	0%	3%	3%	87%	100%	1.6%	98.4%
2	協力	0%	0%	0%	3%	7%	89%	100%	15.6%	84.4%
3	貿易	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	0.0%	100.0%
4	調査	2%	0%	1%	40%	2%	58%	100%	5.6%	94.4%
5	関係	0%	0%	0%	11%	0%	89%	100%	1.6%	98.4%
6	投資	6%	0%	0%	16%	2%	76%	100%	2.4%	97.6%
7	選挙	80%	0%	0%	0%	0%	20%	100%	0.4%	99.6%
8	改正	19%	0%	0%	6%	4%	70%	100%	12.0%	88.0%
9	支援	1%	0%	0%	3%	0%	96%	100%	15.5%	84.5%
10	協議	5%	0%	0%	14%	2%	79%	100%	15.6%	84.4%
11	実施	21%	0%	0%	19%	1%	59%	100%	55.7%	44.3%
12	規制	18%	0%	0%	2%	1%	79%	100%	8.1%	91.9%
13	報告	34%	0%	2%	18%	1%	45%	100%	17.6%	82.4%
14	検討	12%	0%	0%	4%	0%	84%	100%	55.5%	44.5%
15	開発	16%	0%	0%	42%	1%	40%	100%	11.7%	88.3%
16	安定	0%	0%	14%	61%	0%	25%	100%	17.9%	82.1%
17	合意	10%	0%	0%	62%	0%	28%	100%	35.5%	64.5%
18	保障	33%	0%	0%	16%	0%	52%	100%	8.5%	91.5%
19	拡大	3%	0%	6%	14%	1%	75%	100%	34.4%	65.6%
20	措置	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	0.3%	99.7%
21	消費	29%	0%	0%	19%	0%	52%	100%	1.2%	98.8%
22	対応	0%	0%	0%	12%	4%	82%	100%	29.7%	70.3%
23	交渉	5%	0%	0%	10%	0%	86%	100%	2.4%	97.6%
24	強化	11%	0%	1%	5%	1%	83%	100%	36.4%	63.6%
25	計画	23%	0%	0%	12%	0%	65%	100%	6.7%	93.3%
26	緩和	23%	0%	2%	5%	1%	69%	100%	15.1%	84.9%
27	会談	0%	0%	0%	28%	1%	71%	100%	12.6%	87.4%
28	輸入	22%	0%	1%	18%	1%	59%	100%	11.0%	89.0%
29	設置	27%	0%	0%	15%	2%	56%	100%	54.2%	45.8%
30	融資	3%	0%	2%	21%	1%	73%	100%	10.8%	89.2%

7. まとめ

本論文では、新聞コーパスにおいて特徴的な二字漢語のうち、「する」と結びついてサ変動詞として使用される語を対象として、その動名詞としての役割をコロケーション分析という方法によって、明らかにした。その結果、サ変動詞として使用されるが一般的には名詞として使用されることが多い動詞（全使用例のうち90%）、これに対して動詞として使用されることが全使用例の50%に及ぶ動詞とそうでないもの、さらに動詞として使用される時、サ変動詞の活用形において使用活用形に偏りがあるものとそうでないものなど、その使用特徴によって大きく5つのグループに分類できた。

今後、教材を作成するにあたっては、本論文の結果を踏まえて、それぞれの二字漢語動名詞の特徴を考慮した練習問題を作れば、日本語習得において効率良い教材が提供できるだろう。また、語彙意味論の研究面の発展を図るとしたら、中国語との比較において認知言語学的に意義素に普遍性があるかという課題について検証する意義は深いと考える。本論文では、二字漢語動名詞の日本語における統語論的・意味論的機能の一部を明らかにしたが、客観的基準による分類までは至らず、行うべき検証課題は多く残されている。引き続きこれらの課題に取り組んでいきたい。

注

- 1) 田辺和子・中條清美 (2009) 「パラレルコーパスの教育的利用におけるコロケーションの一考察」『留学生科目における語彙指導の研究』『日本女子大学文学部紀要』58。
田辺和子・中條清美 (2011) 「日英パラレルコーパスを利用したDDL教材開発」『日本女子大学文学部紀要』60。
- 2) 平成21-24年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) (21320107) を受けて行われている。
- 3) 内山将夫・高橋真弓 (2003) 「日英対訳文対応付けデータ」<http://www2.nict.go.jp/x/x161/members/mutiyama/align/index.html>

参考文献

- Barlow, M. (2004) ParaConc: A Concordancer for Parallel Texts. <http://www.athel.com/para.html>
 _____ (2005) Collocate 1.0: Locating collocations and terminology. 前掲URL
- 中條清美・木下謙朗・田辺和子・内山将夫・西垣知佳子 (2010) 「日本語新聞キーワードの選定」『日本大学生産工学部研究報告B』43: 53-67.
- Cowie, A. P. (ed.) (1998) *Phraseology: Theory, Analysis, and Applications*. Oxford: Oxford University Press.
- Flowerdew, J. & Mahlberg, M. (eds.) (2009) *Lexical Cohesion and Corpus Linguistics*. Benjamins Current Topics 17. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Gries, S. & Stefanowitsch, A. (eds.) (2006) *Corpora in Cognitive Linguistics: Corpus-based Approaches to Syntax and Lexis*. Trends in linguistics. Studies and monographs; 172. Berlin/New York: Mouton de guyter.
- Hidalgo, E., Quereda, L. & Santana, J. (eds.) (2007) *Corpora in the Foreign Language Classroom: Selected Papers from the Sixth International Conference on Teaching and Language Corpora (TaLC 6), University of Granada, Spain, 4-7 July, 2004*. Language and Computers 61. Amsterdam/New York: Rodopi.

- Johansson, S. (2007) *Seeing through Multilingual Corpora: On the Use of Corpora in Contrastive Studies*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論：言語と認知の接点』, 日英語対象研究シリーズ 5. 東京：くろしお出版.
- Lewis, M. (ed.) (2000) *Teaching Collocation: Further Developments in the Lexical Approach*. Boston: Thomson.
- Matras, Y. (2009) *Language Contact*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」総括班 (2011) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』完成記念講演会予稿集
- Moon, R. (ed.) (2009) *Words, Grammar, Test: Revisiting the Work of John Sinclair*. Benjamins Current Topics 18. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- 中右実・影山太郎・由本陽子 (1997) 『語形成と概念構造』, 日英語比較選書 8. 東京：研究社.
- Römer, U. & Schulze, R. (eds.) (2009) *Exploring the Lexis-Grammar Interface*. Studies in Corpus Linguistics 35. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- 佐藤芳明・田中茂範 (2009) 「レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性—」東京：開拓社
- Sinclair, J. M. (ed.) (2004) *How to Use Corpora in Language Teaching*. Studies in Corpus Linguistics 12. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Teubert, W. (2004) Language and Corpus Linguistics, M.A.K. Halliday (eds.), *Lexicology and Corpus Linguistics*, continuum.
- 田野村忠温 (2010) 「日本語コーパスとコロケーション—辞書記述への応用の可能性—」『言語研究』138: 1-24.
- 内山将夫・井佐原均 (2003) 「日英新聞の記事および文を対応付けるための高信頼性尺度」『自然言語処理』10(4): 201-220

執筆者

田辺 和子 (日本女子大学 文学部 教授)

中條 清美 (日本大学 生産工学部 准教授)

船戸はるな (お茶の水女子大学 留学生センター 非常勤講師)